

2023 年度 屋久島学ソサエティ第 2 回理事会 議事録

日 時：2023 年 7 月 31 日（月） 19:00～20:40 オンライン

参加者：湯本貴和会長、手塚賢至副会長、金谷整一理事（総務・会計）、金井賢一理事（会誌編集）、半谷吾郎理事（ウェブサイト）、小原比呂志理事（企画・大会）、中川正二郎理事（普及・広報）、田平拓也理事（普及・広報）、高嶋敦史理事補（総務・会計）、山田容子理事補（ウェブサイト）、藤田志歩理事補（渉外）、手塚田津子（事務局）、山口容子（事務局）、村松佳子（事務局）

議事：

1. 役員名簿の確認

理事会開催時点における役員の所属の変更等はなかった。

2. 第 11 回屋久島学ソサエティ大会に向けて

12 月 16 日（土）～17 日（日）に屋久島町役場フォーラム棟で開催する第 11 回屋久島学ソサエティ大会の内容を確認した。

- ・テーマセッション「世界自然遺産 30 周年（仮）」について、コーディネータの小原理事より、「人選については未定。島内に限らず、島外の関係者も候補に入れつつ、理事補を交えて考えを練りたい。」という旨の報告があった。
- ・テーマセッション「ヤクスギについて（仮）」について、コーディネータの高嶋理事補より、吉田茂二郎氏、津村義彦氏、小原理事、屋久島森林生態系保全センターに話題提供していただくよう準備を進めている旨が報告された。
- ・屋久島高校生の発表や、一般の口頭発表、ポスター発表などを実施し、8 月初旬に申し込み案内を行うことや、締め切りを 10 月下旬ごろに設定する案が確認された。
- ・会場展示およびエクスカージョンについて、いくつかの具体例が挙げられて実施可能性などが検討された。
- ・日程は、テーマセッションの「ヤクスギについて（仮）」を 1 日目午後を実施し、「世界自然遺産 30 周年（仮）」を 2 日目午後を実施することが確認された。また、懇親会を 1 日目の夜に安房で開催する方針が確認された。

3. 会誌「屋久島学 10 号」の発行に向けて

- ・発行部数の検討をおこない、会員数プラス 30 部程度で 260 部とする方針が確認された。
- ・原稿締切の 8 月 31 日にむけ、現時点での原稿の集まり具合や校正作業の進捗状況などの情報が共有された。
- ・著作権に関する会則を整備して次回総会で承認を得られるようにするため、次回理事会で検討を行うことが確認された。

4. 理事選挙について

- ・ 8月31日時点の会員名簿をもとに選挙を実施することが確認された。
- ・ 役員（任期3年）を3期務めた者は次回理事選挙の被選挙人名簿から除外されるが、理事補は役員の任期に含めない方針が確認され、次回理事会で会則の修正を議論することになった。

5. 2022年度会計報告について

- ・ 集計が終わり、今後監査にまわることが報告された。
- ・ 収入では、前年度までの会費未納分の徴収や、当年号を中心に機関紙販売が進んだことなどが報告された。支出では、機関紙発行費がページ数の増大などから予算を上回ったことなどが報告された。当期収支は25万円超の赤字となったが、前年度繰越を活用して30万円超の次期繰越金が確保された。
- ・ 機関誌発行費を抑えること、広告を集めることの必要性が確認された。機関誌の発行に関しては、紙質を検討することの提案もあった。

6. その他

- ・ 金谷理事が7月19日から20日にかけて屋久島町役場と屋久島環境文化財団を訪問協議した概要が報告された。役場については会誌を（できればテキスト検索可能なPDFで）各課に配布すること、ソサエティに対応してほしい課題の相談を受けること、財団については大会のテーマセッションを研究講座にすること、大会以外にも研究講座の講師派遣を行うことなどが今後の対応として考えられるとのことであった。
- ・ 金谷理事からの報告を受け、役場や財団から外部理事を招き入れてはどうかという提案があがった。
- ・ 湯本会長から、世界自然遺産地域科学委員会や、ユネスコエコパークネットワーク大会に関する以下のような情報提供があった。

科学委員会の次期管理計画案の組織図（案）に民間の団体として「屋久島学ソサエティ」の名前だけが書かれていたが、それに対して屋久島では他にもいろいろな活動をしているグループがあるのに「屋久島学ソサエティ」だけを載せるのはおかしいという2名の委員からの意見があった。科学委員会事務局側では「屋久島学ソサエティ」の活動を認めてここに特記してあるという返答であった。別の委員から「屋久島学ソサエティ」は積極的に屋久島で研究者と地域住民をつなぐ活動をしていて「比類のない good practice」として屋久島および口永良部島におけるエコパークの現況報告のなかで特記されている、ただ他にも活動している団体もあるので「屋久島学ソサエティ等」という表現でどうかという提案があり、それが全会一致で認められた。

7月24日に横浜でJBRN（日本ユネスコエコパークネットワーク）大会が開催された。JBRN（<https://main-jbrn.ssl-lolipop.jp/>）はエコパークを抱えている市町村が会員で、関連研究者は日本MAB計画支援委員（https://mab.main.jp/organization/organization_4/）としてオブザーバー参加が認められ、屋久島町を含めた関係する市町村の代表者が参加した。

（文責：高嶋理事補・金谷理事（総務・会計担当））